



INTERVIEW 01

入社2年目の一歩が、業務を変えた。 — 若手の気づきを、組織の変化につなげるために —

地域働き方・職場改革ワークショップに参加したお二人に、当時の率直な思いや実際の取組について伺いました。

なお、本ワークショップは、若者や女性に選ばれる企業となるために働き方や業務の進め方を見直し、具体的な改善につなげていくことを目的に実施しています。

「改善する側に回る時期だと感じていました」

川端さん：「入社して2年目になって、業務を覚えるだけではなく、“より良くしていく側にも回っていく時期だな”と感じていました。ちょうどそのタイミングで今回のワークショップの話をいただいて、働き方改革についても、自分なりに何か得られるものがあるのではないかと思います、参加しました」

新谷さん：「ちょうど良いタイミングだったと思います。2年目というのは業務の流れが見えてくる一方で、まだ固定観念に縛られていない時期でもあるので、改善の視点を持つには非常に良い段階だと考えています。そうした気づきを、今回のワークショップで具体的な取組につなげてもらえればと思っていました」

「当たり前だと思っていたことに、疑問を持てるようになった」

川端さん：「他社の取組を聞いたときに、“残業時間ではなく成果で評価する”という話が印象に残っていて。それまで“忙しいのは仕方ない”と思っていたんですが、“本当にそうなのか”と考えるようになりました」



2024年入社/総務課 川端 美結さん



「一歩踏み出すことに意味がある」

川端さん：「取引先にデータ対応をお願いするのは、少しハードルを感じました。断られる可能性もあるかなと思って」

新谷さん：「そういう場面はありますよね」

川端さん：「ただ、やらないと変わらないと思い、思い切ってお願ひしました」

新谷さん：「結果もちろん大事ですが、それ以上に“やってみよう”と一歩踏み出したこと自体に意味があると思っています。その経験が、次の改善にもつながっていくので」

「意見を出していい、という実感」

川端さん：「今回一番大きかったのは、自分の意見が実際に形になったことです。それまでは“自分が言うことではないのでは”と思うこともあったんですが、“言っていんだ”と思えるようになりました」

新谷さん：「そう感じてもらえたのは良かったです。意見が出てこないのは個人の問題ではなく、組織として出しやすい環境になっているかどうかの問題だと思っています。今回の取組を通じて、その点に少し変化が出てきたのではないかと感じています」

新谷さん：「一度立ち止まって考えるきっかけになったのは大きいですね。日常業務の中では、どうしても“当たり前”として流れてしまうことが多いので、外の視点が入ることで、初めて見直しの余地に気づけることも多いと思います」

「小さな見直しでも、確実に変化は出る」

川端さん：「実際の取組としては、請求書の処理方法を見直しました。これまで紙で確認していたものを、電子化しました」

新谷さん：「従来のやり方を見直した形ですね」

川端さん：「1件あたりの作業時間自体は数分なんですけど、件数があるので、積み重なるとそれなりの負担になっていて。電子化したことで確認作業がかなり簡略化されて、月単位で見ると数時間程度の削減にはつながっていると思います」

新谷さん：「一つひとつは小さな改善でも、積み重ねることでしっかり効果が出てくる好例だと思います」



2014年入社/社長室長 新谷 浩久さん





「改善が、次の改善を生む」

川端さん：「一つ見直してみると、他の業務でもここも変えられるのではと考えるようになりました」

新谷さん：「実際に、社内でも業務の進め方について話が出る機会は増えてきています。大きな変化ではありませんが、改善を考えること自体が少しずつ広がってきていると感じています」

「完璧でなくても、出してもらうことが大切」

新谷さん：「若手の意見は、必ずしも完成度が高いものばかりではありません。ただ、その中に改善のヒントがあることも多いので、完璧であるかどうかよりも、まず出してもらうことを大切にしています」

川端さん：「そう言ってもらえると、発言しやすくなりますよね」

新谷さん：「その積み重ねが、結果として組織全体の改善につながっていくと考えています」

「これから良くしていく会社であること」

新谷さん：「まだ整っていないからと外に発信することをためらう企業もありますが、むしろこれから良くしていく過程を見せることにも意味があると思っています」

「業務を見る目が変わった」

川端さん：「実際に取り組んでみて、“業務は変えられるものなんだ”と実感できたのが一番大きかったです。それまでは与えられた業務をこなす意識が強かったんですが、“どうすればもっと良くなるか”という視点で考えるようになりました」

新谷さん：「業務の進め方そのものだけでなく、“どう捉えるか”が変わった点に価値があると思っています。一度そうした視点を持つと、個別の改善にとどまらず、継続的に見直していく力につながっていくので、今回の経験はそのきっかけになったと感じています」

本取組を通じて

本ワークショップへの参加により、請求書処理業務の見直しを通じて月数時間規模の業務削減が実現するなど、具体的な生産性向上が図られました。

併せて、若手社員が主体的に業務改善に関わる意識の醸成や、それを受け止める組織風土の変化が生まれ、社内における改善検討の動きも広がりつつあります。

同社では、「何事にもまず挑戦してみる」という考え方を大切にした“TRY HISHIOKA”の理念を掲げています。

今回の取組は、そうした理念を具体的な行動として体現した一例とも言え、継続的な働き方改革と組織力向上に向けた着実な一歩となっています。

会社概要

corporate

会社名 菱岡工業株式会社

代表 代表取締役 岡田 亜紀

創立日 1974年（昭和49年）4月1日

所在地 （本社）和歌山市中島528番地
（西浜工場）和歌山市西浜1660番地28
（海南工場）海南市小野田186番地

事業内容 電気機器・制御機器の開発設計・試作、
ハーネス加工、板金加工、組立加工

従業員数 180名（2025年9月現在）

